

授業で使える当館所蔵地図

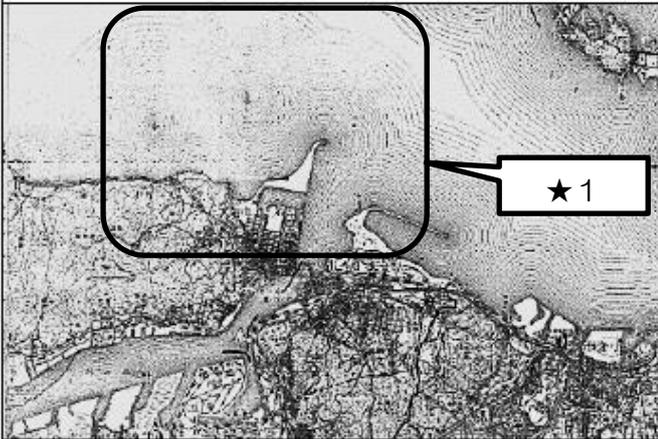
No. 84『5万分の1地形図 小倉』

作成年：1948（昭和23）年、1952（昭和28）年、1978（昭和53）年、2007（平成20）年

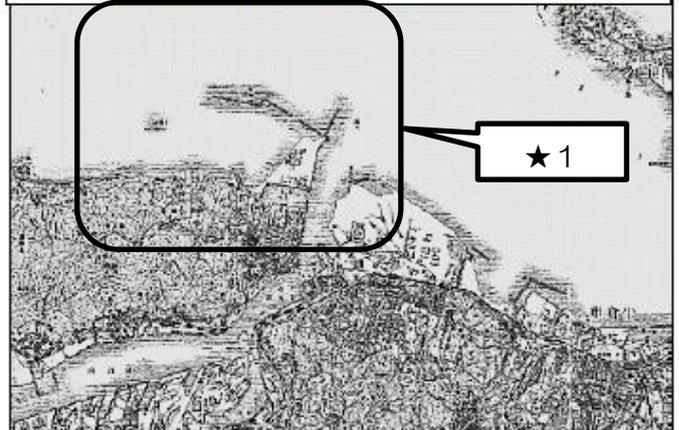
サイズ：42×52cm

作者：国土地理院

1948年(5万分の1地形図「小倉」昭和23年発行)



1952年(5万分の1地形図「小倉」昭和28年発行)



1978年(5万分の1地形図「小倉」昭和53年発行)



2007年(5万分の1地形図「小倉」平成20年発行)



【解説】

福岡県北九州市では、製鉄所などの工場から出る廃棄物を使って、長い年月をかけて海に広い埋立地を造成していた。当初は市中心部の工場の移転や、新たな企業のために長期的に作ってきた。しかし工業の変化により重工業の割合が低くなったので、環境産業を発展させるために使うことにし、現在のエコタウンが形成された。

【★1 工業地帯の変化】

1901(明治34)年に官営八幡製鉄所が操業を開始した。近くの筑豊炭田から産出する石炭と、中国から輸入した鉄鉱石や石炭を利用して鉄鋼を生産して、日本の近代産業の発展を支えた。

しかし1960年代になって、外国産の安くて質の良い石炭が輸入されると、筑豊炭田の炭鉱は相次いで閉山し、鉄鋼の生産も大幅に減っていった。また、公害に対する市民運動が始まり、ついには行政・企業も動き公害防止活動に全力を尽くした。

1990年代になると、北九州市では、雇用を拡大し、北九州らしさをアピールできる産業は何かと考え、「公害を克服していった経験で得た技術や人材、ネットワークを生かして環境産業を進めていこう。」と市や大学、地元の起業が力を合わせ全国最大級の規模の北九州エコタウンが形成された。

【用語について】

・福岡県北九州市

北九州市は、「官営八幡製鉄所」をはじめ、日本の重工業の中心地として日本経済を牽引してきた。一方で、次第に顕在化してきた大気汚染や水質汚濁などの環境問題に、地域住民が苦しみだす。ただ、住民の多くは鉄鋼や関連企業で暮らしを立てていた。また、当時は煙突から出る「七色の煙」は発展の象徴でもあった。

・市民運動

煤(すす)で子供たちの顔は汚れ、洗濯物は黒ずみ、ぜんそくなどの健康被害も現れた。北九州市戸畑区の婦人会が「青空が欲しい」と立ち上がった。積極的に活動を展開し、専門家の指導を受けながら、自分たちで煤煙(ばいえん)の調査を続けた。そして1965(昭和40)年、婦人会は記録映画「青空が欲しい」を制作し、公害の恐ろしさを広く伝えた。

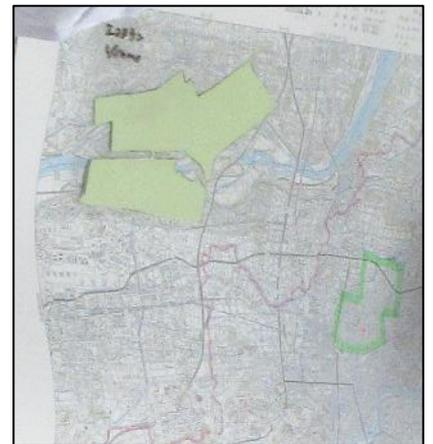
・北九州エコタウン

1965(昭和40)年に、北九州市にある洞海湾は、魚はおろか大腸菌でさえ住めない状態となり、「死の海」と呼ばれた。1969(昭和44)年に全国で初めてスモッグ警報が発令されると、マスコミに取り上げられ、市民、企業、行政が一体となって公害防止に全力を尽くした。市民から要請され、北九州市では企業と議論を重ね、公害防止協定を結び、実行していくことで、公害を克服していった。また、大学と協力して公害分野の研究が進められるなど、北九州市の公害の克服は、全国に先駆けた先進的な事例となった。そして1997(平成9)年、当時の通産省が「エコタウン構想」を打ち出した際、北九州市はその構想を受け入れる十分な準備・検討がすでにできていたため、環境・リサイクル産業の振興を柱とした「北九州エコタウンプラン」が全国に先駆けて承認を受け、若松区響灘地区で具体的な事業に着手した。

【利用の例】

○北九州エコタウンの大きさを知ることができる。

→ 九州地方の自然環境の保全と産業の発展について学習する際に、教科書の資料とともに紹介することで、エコタウンの大きさを知り、そこからなぜ北九州市は環境への取組にこんなにも懸命なのか疑問をもたせることができる。また、自分の学校が立地している地域の5万分の1地形図を用いて、エコタウンの大きさを身近な地域と比較することで、その埋め立て地の巨大さを実感することができる。



○北九州市の産業の変遷から環境問題について考えることができる。

→ 北九州工業地域の工業の変化について学習する際に、当初計画され増設中であった埋立地は、現在の埋立地とは活用方法が違ったことを知り、産業の変遷がグローバル化の影響や自然環境への取組に関連していることを考えさせることができる。

また、環境産業が必要であるにも関わらず、悪臭や地区のイメージ低下から避けられることから、立地の難しさを取り上げ、自分たちが居住する地域のごみ処理等に対する今後の在り方を考えさせることもできる。

○岐阜県のエコタウン事業と関連付けることができる。

→ 北九州市と同じく岐阜県も1997年7月10日にエコタウン事業の承認を受けている。県内各地の取組と比較することもできる。

【参考文献など】

末吉興一 著 「北九州エコタウン ゼロエミッションへの挑戦—環境保全と産業振興—」 2002(平成14)年発行

北九州市 「北九州市環境首都検定 公式テキスト」 2021(令和3)年発行